

讃岐の名を冠するシャコ“サヌキメボソシャコ”

2019年5月15日に香川県燧灘東部海域において、観音寺漁協の小型機船底びき網でサヌキメボソシャコ *Clorida japonica* が漁獲されました（写真1, 2；全長 6.98cm，体重 6.88g）。



写真1

写真2

燧灘東部海域の底びき網で採集されるシャコ科生物では、食用とされるシャコ *Oratosquilla oratoria* の採集数が最も多く、次いでスジオシャコ *Anchisquilla fasciata* が多く、セスジシャコ *Lophosquilla costata* も稀に採集されます。サヌキメボソシャコは、西日本の内湾域、瀬戸内海、福井県下に分布¹⁾している様ですが、燧灘での採集報告は見当たらず、当海域では珍しいシャコと考えられます。

通常食用とされるシャコよりも全体的に丸みを帯びたダンゴムシの様なフォルムで、眼が小さいことも相まって可愛らしい見た目をしています。

和名の由来については、新種記載に用いられた標本の採集地として「さぬき」との表示があったことからこの名がついた様です²⁾。

「さぬき」の名を冠した唯一の魚介類と考えられ、香川県の特色のある生物であることから、食用になれば面白いと思うのですが、各報告では全長 7~8cm 程度の個体しか採集されていない様で、残念ながら、このサイズでは食用にするのは難しいです。

【参考資料】

- 1) 浜野龍夫. 「シャコの生物学と資源管理」水産研究叢書 2005; 51 日本水産資源保護協会, 東京.
- 2) 吉松定昭・深尾剛志. 「干潟の絶滅危惧動物図鑑—海岸ベントスのレッドデータブッカー—」に掲載された底生動物に関する香川県における知見 2018; 香川生物 2018; 45: 57-74.

(文責 藤田辰徳)